

# 令和5年度体力づくり推進計画 ＜全体計画＞

東広島市立福富小学校

## 達成目標

- 個に応じた筋力トレーニングに取り組むことで、体力合計点の総合評価 ED 率を全校平均で12%以下にする。
- 運動やスポーツをするのがややきらい・きらいと答える児童の割合を全校平均で男子4%女子8%以下にする。

## 学校の状況

- ・中学校と施設一体型の併設型の新設校である。
- ・山間地にある児童95名の小規模校
- ・バス通学の児童の割合が高い。
- ・運動場が広く、グラウンドの周辺には登り棒や雲梯、滑り台、ブランコ等の施設がある。

## 児童の運動・生活習慣の実態

- ・コロナの影響で、十分に集団遊びを行うことができない。特に、ボールを使った遊びを行うことが難しい。

## 新体力テスト、アンケート調査等 調査結果との比較から

- ・男子  
立幅とびと握力は県平均・全国平均を上回っている児童が多い。
- ・女子  
昨年度から引き続き「握力」「長座体前屈」の記録で県平均・全国平均を下回っている児童が多い。
- ・共通  
コロナ前と比較すると低学年の体力合計点の平均が男子で約3ポイント、女子で2ポイント下回っている。

# 実態把握

## 児童生徒の実態や新体力テスト等から 明らかになった課題

- ① 運動やスポーツをほとんどしないと答えた児童の割合が19%と、前年度に比べて4ポイント上昇している。
- ② ED率33%（総合評価のD+E/全児童の割合）と基礎の体力がついていない児童の割合が大きい。（全校でもED率18%）
- ③ 昨年度から総合評価が下がった児童の割合が42%である。

以上のことから、体を動かす習慣を身に付けていくことが必要である。

## 取組事項

- (1) 児童自らが課題を見付け、解決していくことのできる場と環境を整える。
  - ・各学年の課題に応じて、準備運動にGOGOマッスルメニュー（基礎的な筋力トレーニング）を取り入れる。
  - ・帯時間で体力向上タイムを確保する。
  - ・全学年でボールを手で掴んで操作する運動を取り入れる。（ドッジボール、ハンドボールなど）
  - ・全学年でゲーム、ボール運動の時期を揃えて行い、事前研修を行い伸ばしたい力を明確にして学習に取り組む。
- (2) 体育科および日々の教育活動における取組
  - ・ボールを使ったウォーミングアップを行ったり柔軟を意識した準備運動を行ったりすることで、柔軟性の向上だけでなく、運動に対する児童の肯定的な意識も高めていく。
  - ・ED率33%（総合評価のD+E/全児童の割合）の児童を全職員で共有し、外遊びをしたり、全校体育をしている際には肯定的な声掛けを行ったりする。
  - ・全員が楽しく行える外遊びを体育委員会中心に進めていく。ランニング、ボール投げなど。
  - ・中学校と連携し、中学校教員による指導を行うことで、より専門的な視点も取り入れて教育活動を行う。
- (3) 児童会・委員会を中心とした集団遊びの機会の保障
  - ・運動場や体育館で全校児童が楽しむ遊びを考えさせ、児童会が中心となって選び、遊びを紹介させる。

## 期待される効果

- 主体的に自らの課題解決に取り組もうとする児童の育成
- 課題解決に向けて協働的に活動できる児童の育成
- 様々な運動を知ることにより、生涯通しての日々の体力づくりを習慣化できる。
- 集団遊びの機会の保障により、外遊びの機会が増加する。

## 体制

- ・体力向上委員会（校長、教頭、体育主任・保健主事、養護教諭）を設置し、校務分掌部会「生徒指導部」を中心に推進していく。
- ・原則、年3回（5月・7月・1月）の委員会と月1回の生徒指導部会を開催し、検討と改善をしていく。

# 令和5年度体力づくり推進計画 <年間指導計画>

東広島市立福富小学校

## 達成目標

○個別の課題を克服させていくことで、全種目で県平均・全国平均を上回るようにする。

